



落六小研究便り

令和5年1月17日
NO. 16

① 今年度6回目の研究授業ありがとうございました！

本日、今年度6回目の校内研究授業を行いました。どのチームも積極的にかかわりプレゼンをする姿が素晴らしく、先生方からは「4年生立派だった！！」という声が多々聞こえる授業となりました。提案して下さった中学年ブロックの先生方、授業して下さった矢沢先生・榊原先生、ありがとうございました。

当日のオーダーシートと併せて、塩倉先生がとってくださった記録、中田先生にいただいたプレゼンデータを以下の場所に入れておきます。併せてご覧ください。「O1校務」➡「O7研究」➡「令和4年」➡「研究授業」➡「4年授業（O117）」



② 講師の先生のお話

協議会后、校長室でのお話を共有させていただきます。

● 授業内容の扱いについて

Q「東京都の特色ある地域の様子」では自分の地域と比較することが前提だとしたら、「染め物のさかんな新宿区」は扱わないほうがよいということですね。

Aそうですね。特にこのプログラムで研究発表することはやめたほうがよいと思います。新宿区とは違うエリアの大田区や八丈島などの地域の様子を学ぶとよいです。今日の活動を見た限り、新宿区の染めに特化している子はそんなにいませんでしたよね。他の地域の染め、例えば京都の友禅染めなどで行うとよいかと思えます。

● 授業改善について

Q今日の授業を改善するとしたらどんなことがあるでしょうか？

A子どもだけで、これ以上の活動は厳しいのではないのでしょうか？あとは先生と話をする中で、上乘せしていくことが大事かと思えます。より掘り起こしていくということですね。コンサルテーションというアプローチになるかと思えます。

コンサルテーションって何？

コンサルテーションとは、異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助の在り方について話し合うプロセスをいいます。

むしろ、みらい科として社会や国語にどうアプローチするかを明確にすることが大事だと思います。社会や国語のどのエッセンスを取り入れて学習プログラムとして定義しているのかという部分がまだ見にくいです。

中田先生のお話を受けて、今回の構成図を以下のようにまとめてみました。(時数は仮です)今後の指導案にも関わるとは思いますがいかがでしょうか?ご意見ください。

構成図案

国語 「世界に誇る和紙」全16時間中2時間	社会 「染め物のさかんな新宿区」全8時間中5時間	みらい科 「染めを未来へ伝えよう」全13時間	総合 「染めを知る」全30時間中7時間
①～⑤文章構成を考えながら読み、要約の仕方を理解する。			①～⑳自分たちで育てた藍で反物を染め、地域の店舗に出展する。
⑥百科事典の使用方法を理解する。			○身近なものを染める(Tシャツ)。
⑦伝統工芸を選び、よさを見つける。	①～④新宿区で染物がさかんな理由や染めの工程などについて調べる。		○身近なもので染める(校庭の柿)。
⑧～⑭伝統工芸について調べリーフレットを作り、読み合う。	⑤地域の方に借りた染小紋に触れる。	①～③地域の染め職人の話を聞き、伝統を伝えるためにできることを個々で考える。	
⑮～⑯地域の伝統工芸のよさを見つける。		④～⑥イメージマップをもとにグループの計画にそって課題探求活動に取り組む。	㉒～㉙染め職人の話しを聞き、染めの今後やできることなどを考え活動する。
	⑥～⑨染め物産業の現状や染めの小道について調べかわる。	⑦～⑨新たな課題を見つけて課題探求活動に取り組む。	
		⑩～⑫染の小道に参加し、各グループの目標を達成する。	⑳3年生に藍の種や活動を引き継ぐ。
		⑬学習のふり返りをす	